

幼児の使用語と語の意味の理解 : 満2歳当日の一日調査から

著者	大久保 愛
雑誌名	研究報告集
巻	2
ページ	157-183
発行年	1980-03
シリーズ	国立国語研究所報告 ; 65
URL	http://doi.org/10.15084/00001072

幼児の使用語と語の意味の理解

——満2歳当日の一日調査から——

大久保 愛

はじめに

幼児のことばの実態を知る方法には色々あるが、この調査は、Tという男児が2歳の誕生日を迎えた日の一日に、どういうことばを使って話したかを、母と子のかかわりの中で録音採集⁽¹⁾したものを資料として、分析したものである⁽²⁾。一日という切り方は、家庭の異なる幼児にも実施できるし、この幼児の別の一日とも、また、一年後、二年後の一日とも比較できるという利点がある⁽³⁾。その他、生活の流れの中で幼児のことばが把握できる。

対象児：T児(長男) 昭和49年3月3日生

採集者：母親(大学卒) 携帯用録音機ソニーTC-1000B使用

採集日：昭和51年3月3日 往復120分テープ5.5本使用

採集した資料を文字化し、文脈つき語彙カードを作成して後、それらを、品詞別に分け、名詞のみは意味分類⁽⁴⁾した。この報告では自立語⁽⁵⁾のみをとりあげた。また、語がどういう意味で用いられているかに重点をおいたので、発音符号は用いず、幼児の使用語の表記はかたかな書きにした。

まず、見出し語として使用語をカタカナで書き(発音そのままでない)、次に回数、そのあとに使用例の一部をあげた。このうち、見出し語がひらがなのものは、主として、音まね語で使用したものである。また、使用例のうち、意味のとりにくいものは、場面・文脈がわかるようにかっこをして注釈を入れた。以下の順序で述べる。

1. 名詞
2. 代名詞
3. 動詞
4. 形容詞
5. 形容動詞
6. 連体詞
7. 副詞
8. 接続詞
9. 感動詞
10. 音まね語⁽⁶⁾
11. こそあど
12. 不明

1. 名詞 異なり 239, 延べ 1082

1.1 自然界に関することば 異なり 24 延べ 79

1.1-1 自然界及び自然現象 異なり 11 延べ 41

- ① アブク 2回 お風呂で使用。
- ② アメ 2回 雨は、絵本で長靴を見て、連想して言う。
- ③ ウミ 2回 海には行ったことがない。絵本で教わる。テレビの画面いっぱい青色が出たら「コノ ウミ」と言う。
- ④ オト 5回 父親が戸を開ける音を「オトンチャン オット」「オト ガラガラ」、飛行機の音を「オト ギン」と言う。
- ⑤ オンモ 8回 ヨーグルトをおんもで買ったの意で「オンモ」。その他、「オンモ ユキ」「オンモ イク」と使う。
- ⑥ クモ 3回 子どもが外に行きたいというと、母が「太陽が出ていない、くもってる、雲がいっぱい寒い寒い」と言ったあと、しばらくして、「タイヨウ ナイ」と言い、そのあと「クモ イッパイ」と言う。
- ⑦ サカ 1回 母親と電車遊びをして、母が「橋のとこビューン」と言ったのに対して「サカ」。
- ⑧ タイヨウ 5回 子「オテンキ」母「お天気って何？」子「タイヨウ ナイ」母「太陽ってわかる？」子「シタニ タイヨウ」というふうにはっきりわかっているわけではないが使っている。
- ⑨ ツキ 5回 ヨーグルトの丸い青いふたを見て、「チュキ」。父親と自動車であって「ツキ ツキ ツキ」父「そ、月」子「トッテ」父「月は取れないのよ」子「ツキ バイバイ」という会話がいつときされている。
- ⑩ テンキ 4回 子「パンパンパン？」これは、今、ふとんを干さないのかと、母親に聞いているのである。母「きょうは、お日様が、太陽が出ていないから、外に干せないの」子「オテンキ」子どもは逆に理解しているのだろうか。
- ⑪ ユキ 4回 絵本を見ながら「オンモ ユキ」などと使う。

1.1-2 動物

家畜、虫、架空の動物も入れる。異なり 10, 延べ 32

- ① イヌ, ワンワン 8回 母「ワンワン持ってくるの？」に対して「イヌ」1回。「コンド ワンワン」「ワンワン ココ」と、ワンワンの使用は7回。
- ② ウマ, オンマ 6回 馬事公苑でみた馬を思い出して「チャイロ ウマ」「オウマコン」という「コン」のつく言い方は、ふざげに恥ずかしさと甘えがまじったこの幼児独特の造語で、色々の語についている(7)。母が馬になって、自分をのせて遊んでくれの意。

- ③ オニ 9回 お話や絵本から。「ピンク オニ」とも使う。
- ④ カ(蚊) 1回
- ⑤ トンボ 2回 ④の蚊と、このトンボは小さい虫を指すようだ。子「カ」母「ん？」子「トン トンボ」母「え？」子「ク・キ ク・キ コン ク・キ トンボ (口のところに蚊みたいな虫が飛んで来たの意)」
- ⑥ カッパ 2回 玩具。
- ⑦ トリ 1回 窓から外をみていて、鳥はどこにいるかの意で使用。
- ⑧ ねこ 1回 「ニャー」とTVに写った猫をみていう。
- ⑨ パンダ 1回 おもちゃのパンダは一階においてあるの意で、「ムコウ パンダ」
- ⑩ ヒヨコ 1回 文脈ははっきりしない。

1.1—3 植物 異なり3, 延べ6

- ① タネ 2回 母「種食べられないの」に対して、子「パネ」。模倣しようとして言う。のち、ことばの練習をする。
- ② ハッパ 1回 絵本を見て
- ③ ハナ 3回 本物の花を指して、その他ふとんの花模様を見て

1.2 日常生活用語 異なり108, 延べ318

1.2—1 身体の名称及び現象 異なり15, 延べ36

- ① アシ 1回 「アチ イタイ イタイ」
- ② アタマ 1回 カッパの頭を指して
- ③ ウンコ 4回 「ウンチルルベ」「ア、ウンチ」「ウコ ウコ ウンコ」などと便所でふざけて言う。
- ④ オチンチン 1回 自分の裸の写真を見て
- ⑤ おなか 3回 「ボンボン」で
- ⑥ クチ 2回 「ク・キ」「ク・キ トンボ」と使用。
- ⑦ け 1回 「カンカン」で髪を指す。
- ⑧ ケガ 1回 母「怪我するでしょうが」に対して、まねて「ケガ」。(まねの場合、知っていて、親のことばを直ちにエコラリーふうにまねたのか、その語を知らないでまねたのか区別がつかないので、この報告では、これらの語も見出し語としてあげ、使用回数も数えた。以下同じ)
- ⑨ シッコ 7回 「チッチ」「シツ」「チーチーコン」などと発音し、おしっこしたと言う。
- ⑩ せき、かぜ 1回 「コンコン」で
- ⑪ チ 1回 怪我したらどうなるかと母に聞かれて、「アカイ チ(血)」と言う。
- ⑫ テ 8回 赤いマジックで手にいたずら書きをして、手をふいてくれとか、懐

中電灯で手のひらに光をあててもらい遊びが気に入って、もっと光をあててくれなどの意で、「テ」「オテテ」と使う。

- ⑬ ヘソ 1回 玩具のかっぱのおへそを言う。
- ⑭ ミミ 1回 これもカప్పの「オミミ」
- ⑮ メ 3回 同じくカప్పで、「メメ」「オメメ」

1.2-2 食べもの・飲みもの 異なり 31, 延べ 126 語

- ① イチゴ 1回 いちごはよく知っているし、言えるが、この場合はりんごの小さく描かれた絵を見て言う。
- ② ウドン・オウドン 6回
- ③ オアゲ 2回 豆腐屋のラప్పの音を聞いて「ブー イク」母「豆腐があるから」と言うと、「ウワギ(おあげのこと)」母「きょうはいいのよ」というと、「オアゲ ナイ」
- ④ オコウコ 1回 食事中に
- ⑤ カワ 2回 「食べもの・飲みもの」の分類に入れてよいか疑問であるが、リンゴやカステラの皮を指して言う。
- ⑥ キャベツ 1回 「ダベツ」と言っているので、キャベツのことなのかははっきりしないが
- ⑦ ギュウニュウ 11回 発音しにくいらしく、「グンジュ」「グンニュウ」とことばの練習がなされている。その他、「フタツチュ グンニュウ」「グウニュ アマイ」
- ⑧ キュウリ 1回 母のまねで「クーリ」
- ⑨ コナ 2回 パン粉を指して言う。
- ⑩ ごはん 4回 「ゴー」「ゴーゴ」「マタ ゴーゴ」と使用。
- ⑪ コーヒー 1回 「ピーピー」とコーヒーメーカーの機械の音で、コーヒーを指す。
- ⑫ コロッケ 3回 発音するのがむずかしいらしく、「コッケ」「トッコック」と言う。
- ⑬ さかな 1回 「カンカン」。
- ⑭ タクアン 5回 バナナの小さいのを「キイロ タクアン」と言ったり、母「飲みものは何にしますか」子「タクアン」などと言ったりもしている。
- ⑮ たまご 3回 この語も発音しにくい、「チーロイノ コンコンコン」「モウイ コンコンコン」と、「コンコン」あるいは、「コンコンコン」と言う。
- ⑯ トウフ 3回 鍋のふたをあけて「トッポ モウ ナイカ」などと言う。
- ⑰ ニク 6回 食事中に
- ⑱ ノリ 4回 「モット ノリ」「クリョ(黒) ノリ」「ノリ モット」などを使う。
- ⑲ パイパイ 19回 母乳。「コンド パイパイ」「パイパイデス」「マタ パイパイ」
- ⑳ バナナ 2回 バナナをくれと要求。

- ㉑ パン 9回 パンを要求したり、絵本のパンを指して言ったりする。「パン(を 買いに) イク」「アマイ パン」とも使う。
- ㉒ ビール 1回 母の「ビールはここ」に対して、「ビュ ビュ ビール」と言う。
- ㉓ プリン 11回 ヨーグルトのことも言う。「プリン トッテ」「プリンコン」とも。
- ㉔ ブロッコリー 1回 「アンデダッコリー」ときこえる。はっきりしない。
- ㉕ ベントウ 1回 乗物(ひかり号)の絵を見ながら「ベント」。
- ㉖ ホネ 1回 食事中、魚のほね
- ㉗ マンマ・ウマンマ 10回 食べたいという催促が多い。「マタ ウマンマ」「ウマンマ ナイ」「マンマ トッテ」
- ㉘ ミズ 5回 水が飲みたいの要求。
- ㉙ ユ 1回 母「水よ。はいどうぞ」子「オユ」母「お湯? 水よ。ごめんなさい」
- ㉚ よーぐると 1回 「ボトン」で
- ㉛ リンゴ 7回 「アカイ ギンゴ」「ナイ リンゴ」「マタ リンゴ」などと使用。

1.2-3 身につけるもの(衣類ほか) 異なり11, 延べ19

- ① クツ 1回
- ② コート 1回 おもちゃのひかり号を走らせて母子で遊びながら、母「ほら、雪がばらばら寒いよわ。Tちゃん寒くない?」子「ウン」母「寒くないの、そう」子「コート」母「コート着るの? 持ってこなくてもいいのよ。じゃ着たことにしましょう」の文脈で使われている。
- ③ シャツ 7回 ④ ズボン 2回 「シャツ」も「ズボン」も干し物を見て言う。「キイロイ シャチュ」「オトンチャン ジュボン」と使用。
- ⑤ ジャンパー 1回 テレビを見ながら、子「ジャンパー」母「ジャンパー」子「アオイ オトンチャ」母「そうそ、青いジャンパーを着ているお父さんね」
- ⑥ セーター 2回 子「セーター」母「ん?」子「ミンナ セーター」
- ⑦ ねまき 1回 ねまきを見て、「ピンク ネンネ」
- ⑧ バッグ 1回 ハンドバッグのこと。
- ⑨ ベスト 1回 「アオイ ベスト ナイ」と使用。
- ⑩ ポケット 1回 ものを、母のポケットに入れるといいの意で、「ポッケ?」母「ん? 入れといて、ありがとう」
- ⑪ メガネ 1回 絵本を見ながら、「メガ」(小声で)、母「そう、お父さんが、めがねを掛けて字を書いているわね」

1.2-4 家具・用具 異なり40, 延べ101

- ① アイロン 1回 道具の絵本を見て
- ② イス 9回 居間兼ダイニングキッチンには家族の椅子がある。「オトンチャン

イス」へやが狭いのでよくぶつかる。「オッκει イス ゴーン」と、自分からぶつかったときは泣かないで客観的に言う。

- ③ イト 1回 母「知ってるでしよ糸」子「イト」
- ④ オケ 1回 風呂でまねて言う。
- ⑤ おんどけい 2回 「ナンナン」「ダンダン」と言う。
- ⑥ かいちゅうでんとう 1回 「パー」と言う。
- ⑦ カーラー 1回 髪を巻くカーラーのことを「カー」と言い、「カーガ ナイ」
- ⑧ きゅうす 1回 「ジャー」とお茶を入れる急須を言う。
- ⑨ ギンガミ 1回 母「銀紙に包んである」子「ギンガ」と言う。
- ⑩ クシ 3回 「クット」、「カンカン」とも言う。「カンカン ナイ」「カンチャン カンカン」(お母さんの櫛)。
- ⑪ こーど 1回 「ガーガーガー」
- ⑫ こーひーめーかー 1回 「ピーピーピー」と言う。
- ⑬ コップ 3回
- ⑭ ザプトン 2回 窓のてすりから干してあるざぶとんが下に落ちているのを見て母に教える。「ジャプトン」「オジャプトン」と。
- ⑮ すきー 2回 父親のスキー具がいつものところがない。「チュー ナイネ」
- ⑯ ストッパー 1回 母「そうね、これストッパーも」に対して、子「ショッパー」
- ⑰ スプーン 1回 母に要求。
- ⑱ そうじき 1回 「ガーガー」
- ⑲ タオル 21回 タオルと言えず「タイル」「タインコン」と言い練習する。
- ⑳ テレビ 2回 発音しにくいらしく、やっと言う。
- ㉑ デンキ 2回 「デンキ」と1回あるがはっきりしない。救急車や工事現場の赤色灯あるいは電気を「パッパッパー」と言う。1回
- ㉒ デンチ 7回 玩具の汽車に入れる電池を探しながら、「ピポピポ デンチ」「デンチ ナイ」「デンチ アッタ」
- ㉓ デンワ 4回 玩具や本物や絵の電話を言う。
- ㉔ ドウグ 2回 「どうぐ」という題名の絵本が見つからないので「ドウグハ ナイ」などと言う。
- ㉕ トケイ 3回 「トケエ」で1回。その他、音まねで「カタカタ」「ガタガタ」2回
- ㉖ ネジ 1回 子「ネジ カタイ」母「ねじさびついてキイキイ言ってる」
- ㉗ パイプ 1回 「オトンチャン パイプ」
- ㉘ バネ 4回 母「ここに入ればいいの、そのバネを」子「バボ」母「ばねのこと？ ばねって言ったから？ 私が」子「バーネ」母「ばねってどれ？ そうそう これ」子「バネ」3回。「ギー」ともいう。「モット ギー」1回
- ㉙ ビン 1回 ビールビンのことを言う。「ビン ナイナイ(自分でビールビン

をしまう)」

- ③⑩ フォータ 1回 道具の絵本を見ながら
- ③⑪ フキン 2回 手が食べものでべたべたになった時「フキン トッテ」
- ③⑫ フタ 3回 「フタ ナイ」「フタ アッタ」「フタ トッテ」
- ③⑬ フトン 3回 「フトン(自分のふとんをしまうの意で)」「フント ナイナイ」また、TVニュースでコーヒーの入った麻袋の山をみてふとんとまちがえて言う。
- ③⑭ ベン 1回 「手になに持ってる？」の母のことばに対して言う。
- ③⑮ ペンチ 2回 木で出来ているおもちゃのもの。
- ③⑯ ホウチョウ 1回 道具の絵本を見ながら
- ③⑰ マット 1回 話の中に出たタオルからの連想でお風呂のマットを言う。
- ③⑱ メジャー 1回 がらくた箱の中から出てきたら
- ③⑲ ろうそく 1回 「フー」、誕生日のケーキについているろうそくを「フー」と言って消すから
- ④⑰ ロープ 4回 階段についている手すり代用のロープ。発音がむずかしいので練習。

1.2—5 住居・へや 異なり10、延べ34

- ① イッカイ 2回 積木遊びで、一階。
- ② オウチ 1回
- ③ カイダン 2回
- ④ ゲンカン 2回 積木遊びで
- ⑤ ト 3回 「オトンチャン ト (お父さんが帰宅してガレージの戸を開けた。戸の音から想像して母親に言う。この場合の音は父の帰宅ではなかったが)」
- ⑥ ドア 3回 「ドア トッテ (戸を開けてくれの意で)」もある。
- ⑦ ニカイ 13回 「カー」「カイ」と言う。積木つくりの場合、「一階」とまちがえる。母「積木でどういうふうにするのが好き？」子「カイ」母「かい？」子「イッカイ」母「あ、一階？」子「イッカイ カイ ニカイ」。その他、「カー イク」「ウーエンチ ニカイ (玩具の遊園地はここになくて二階にある意)」「カイ」は11回、「イッカイ」(前出)は2回、「ニカイ」は2回
- ⑧ フロ 6回 母「おふろに入っているですか」と父親に声をかける。子「フロフロ」、母「お父さんが“オーイ”と言ったら入るのよ」子「フーフロ」。その他、「ヒトツ フタツ」というのも風呂を指しているようだが、はっきりしない。2回
- ⑨ ヤネ 1回 積木をしている場面で
- ⑩ ロウカ 1回 「ロウカ ナイノ」と、探しものをしていて言う。ほんとに廊下を指しているのかどうか不明。

1.2—6 その他 異なり1, 延べ2

- ① ゴミ 2回 子「ナニ？」母「ごみ」子「ゴミ」母「ごみ？」子「ゴミ」。
のちに「パッチ」の意でか「バギー」と言っているが、はっきりしない。

1.3 社会生活用語及び行為 異なり26, 延べ208

1.3—1 人間そのもの(固有名詞含む) 異なり14, 延べ132

- ① アカチャン 5回 「バイバイ(お乳)」が飲みたくなったりすると、自分のことをこう言う。3回、自分の写っている写真を見ながら、自分とはわからず「アカチャン」と言う。2回
- ② オカアサン 30回 一番多い使い方は、たとえば、自分が食べられない時、「ミンナン カンチャン(みんなお母さんが食べる)」とか、自分ができない場合、母「マッチあぶないよ。さわっちゃいけません」子「カンチャン(お母さんがして)」とか、「オカンチャン ニャー(お母さんが「あがり目がり目猫の目」をして)」というふうに16回も使っている。その他、呼びかけ、及び、テレビや絵本に出ている母親の命名など。
- ③ オジイサン 15回 写真を見ていて、「オジイチャ」「ゴーン ジンタン」「ジンダン イタイ イタイ」と、写真からその時の状況を連想して、お爺さんがぶつかって怪我したと言っている。同じ敷地に祖父母が住む。
- ④ オトウサン 30回 お父さんは昼は家にいないが、テレビを見たり、お父さんの衣類などを見たり、玄関方向でのかすかな音を聞くと父を思い出して言う。「アオイアオイ オトウサン(青いジャンパーを着た父親風の男をTVで見て)」「オトンチャン ジュボン(干し物のズボンを見て)」「オトンチャン パイプ」「オトンチャン オット(音)」
- ⑤ オバアサン 1回 「オバン ナイ(いない)」
- ⑥ タアチャン 25回 被験者T児の名前。この一語で、たとえば、ねじを自分が回すとか、自分がカーテンをしめるとか、ふとんを敷くのを手伝うとかの意で使う。その他、「タンチャン タンチャン ギー(自分がヨーグルトのふたを開ける!)」「ダンジャン グー(おれは怒ってるのだ)」「タンチャン タンチャン アーア(自分で、ものをひっくり返して)」また、自分の写真をみながら、母「これはだれ？」子「ターチャン」などある。
- ⑦ オトコ 2回 ⑧ オンナ 3回 ⑦, ⑧ともでたらめ。
- ⑨ コーチャン 7回 TVのロッキード事件のニュースを聞いて覚えて使う。「コンチャン」「ゴンチャン」ははっきりしないものも含んでいる。
- ⑩ ノコチャン 2回 絵本の登場人物で女の子。「ミドリロ ドンコチャン(緑

色の洋服を着ているノコチャンの意)」

- ⑪ ブンチャン 2回 絵本の登場人物で男の子。ふざけて「ブンチャンコン」とも。
- ⑫ ごみや 1回 「ガー(ごみやの車のところへ) イク」
- ⑬ とうふや 1回 「ブー(豆腐屋さんのところへ豆腐を買いに) イク」
- ⑭ ヤオヤ 8回 八百屋の「やおやです」という大声を聞くと、「ヤーヤヤー」あるいは、「ヤオヤ イク」とか、ほうれん草などの野菜を見ると、「ヤヤヤ(八百屋で買った)」と言う。「ヤーヤー ウェーン(泣いた)」(後出)もある。

1.3-2 人間の活動及び行為 異なり7, 延べ58

ここに入れた語は、活用のない動詞として、動詞の中に含めることも考えられるが、この報告では、名詞として、この分類に入れた。

- ① オンブ 4回 ② オンリ 3回 「ガッキ(降りたい)」「ココニ アンリ」
- ③ タッチ 4回 母に立っしろの意で「タッチコン」。ずわって字を書いている絵を見て「タッチ」とまちがえて言う1回。
- ④ ダッコ 7回
- ⑤ チョウダイ 12回 「チョウダイ」は2回。あと、ください、ちょうだいの意で、「ドウジョ」を、まちがって使っている。10回
- ⑥ ナイナイ 19回 自分でしまってきた、今自分でしまっているの意で使用。「ココ(に) ナイナイ(する)」。命令もある「フトン ナイナイ(せよ)」
- ⑦ ネンネ 9回 ねむたくなったから寝に行きたい。ふざけて「ネンチャンコン」とも。

1.3-3 あいさつ 異なり2, 延べ12

- ① グッドバイ 2回 母が「お父さんにお休みなさいしなさい」と言うと、ふざけて、「グーバーブー。バイバイ グーバー」と言う。
- ② バイバイ 10回 絵本を見ながら、子「バイバイ」母「あっ、これバイバイしてるところ? 行ってらっしゃいしてるのね」がある。また、父親と踏切までマイカーで出かけて、「クロイ ブー バイバイ。アカイ バイバイ」とか、「ツキ バイバイ」が出ている。母と電話ごっこをして、母「もしもし」子「ジャ バイバイ」など。

1.3-4 公共物(地名も) 異なり3, 延べ6

- ① エキ 1回 父がマイカーの中から「ここ何?」と聞くと言う。
- ② コウエン 2回 馬の話になって、母が「ピューンって飛び越えてたの?」子「コウエ(-)」, 馬事公苑に行った時を思い出して言う。
- ③ セタ 3回 地名。「セタ オッキー ブーブー(瀬田に行くときは、本物の

自動車に乗るの意)。母「どこ行くの？」子「セタ」

1.4 文化的活動及び行為 異なり 38, 延べ 305

1.4—1 遊び 異なり 3 延べ 50

- ① イナイナイ・バー 38回 「いないないばー」が好きで、何回も母とする。「ココ イナイナイ」とか、「バー イナイナイ」。「イナイナイ」だけ21回、「バー」だけ31回。
- ② オンマ 10回 「おんまばかばかをしてくれ」の意で3回。その他、お馬遊びでは「ヒンヒン」「ドードー」「ポカポカポカ」もある。
- ③ ニャー 2回 「カンチャン ニャー（あがり目さがり目猫の目をしてくれ）」

1.4—2 玩具・遊具 異なり 12, 延べ 75

- ① オモチャ 10回 母「それ取っちゃだめなの。おもちゃじゃないの（クリーム
のビン）。」子「ウン オモ」母「うん？」子「オ、オボチャ」母「おもちゃって
言えるの？」子「オボチャ」母「Tちゃんのおもちゃどこにある？ これはおし
ろいよ」子「オモチャ」母「それおもちゃなの。この前遊んでたものね。おもち
ゃほかはどこにある？」子「オモチャ」母「そうそ、積木はおもちゃね」
- ② キシャ・シュッポシュッポ・ポッポッポ 27回 「キシャ」2回、「シュッポ
シュッポ」18回、「ポー」とか、「ポッポッポ」7回。みなおもちゃ
- ③ ギロギロ 1回 クリスマスツリーに飾る紙「ギロギロ アッタ」
- ④ コイノボリ 1回 母「こいのぼり？」子「コイ」。まねでも言えない。
- ⑤ コマ 3回 おもちゃ箱の中にコマを見つけて言う。ふざけて「コマコ」とも。
- ⑥ すべりだい 1回 「チュー」
- ⑦ ニンギョウ 1回 テレビを見ながら母のをまねて、「ニンギョ」
- ⑧ ぶらんこ 1回 「ブーダブーダ」。写真を見て言う。
- ⑨ ボール 2回 写真を見て、「ボーロ」とも
- ⑩ プーチャン 2回 ぬいぐるみの熊。「ブンチャン イナイネ」
- ⑪ ユウエンチ 25回 遊園地にある回転する台にカップがのっけていて、それに乗
って遊ぶのがおもちゃになっている(俗称コーヒークップ)。それを母親が「ゆう
えんち」と名づけて教えた。発音むずかしいので、しきりに練習している。子「ユ
ウウンエンチ」母「遊園地。遊園地」子「ユウエ」母「あぶないわよ」子「ウウ
エンチ」母「うん？」子「ウーエンチ」母「遊園地のおもちゃね」子「ユウエン
チ」母「公園のようなところね、いろんな乗物があって遊ぶ処。わかる？」。この
日、寝る前になると、子「ユウエンチ」「ユウエンチコン」などと言える。
- ⑫ レール 1回 おもちゃの汽車を走らせる組立式のもの。

1.4—3 乗物とその周辺のもの 異なり 18 延べ 139 回

- ① オートバイ 4回 父親とマイカーで出かけて、走っているオートバイを見、「オートバイ」。そのあと、絵本を見ても言う。
- ② キュウコウ 2回 絵本を見ながら「アオイ キュウコウ」とも。
- ③ きゅうきゅうしゃ 7回 「ウーウーウー」が4回、「ピーポーピーポー」が3回。
- ④ クルマ 14回 絵本を見ながら、おもちゃの自動車類も、街路でも。「クヤモウ ナイナイ」「マター クラマ」と。発音ははっきりしていない。
- ⑤ ジドウシャ 40回 「ジドウシャ」1回あるが、不明瞭。「ブーブー」は39回。玩具、本物など。「イマ ブーブー イイヨ（踏切があがったから自動車通ってもいいよ）」「マタ アオイ ブーブー」「オオキイ ブーブー」。
- ⑥ シュウテン 5回 「シュウケ」「シュウテン」。練習もある。
- ⑦ タクシー 9回 「ミロイロ タクシー ミタ」「ドウゾ タック」など。
- ⑧ ダンプ 5回 「ダンプ ナイナイ」「ダンプ ウェーン(おもちゃのダンプに八百屋さんがさわったので泣いたよね、と過去のことを思い出して)」
- ⑨ デンシャ 26回 練習もあるが「デンチャ」と言えるようになっている、8回。ふざけて「デンシャリコン」とも。「アオイ アオイ デンシャ」。「ゴンゴン」「ゴーゴー」「キイロイ ゴーゴー」「マタ ゴーゴー」などは絵本、本物を見て、18回
- ⑩ トラック 3回 街路上で、「アカイ カック」「アオイ タック」発音むずかしく父との練習あり。
- ⑪ バス 5回 朝、TVにバスが写っているのを見て、「バプー バプー」「ゴーゴー パブ パブ ピーポーピーポー」「パブ フタツ」
- ⑫ バトカー 5回 父とドライブした時のことを思い出して母に話す。「シロバトーカー」「パトカ イッパイ」
- ⑬ ヒコーキ 5回 絵本とか、飛んでいる音を聞いて、「マタ (ヒ)コーキ」
- ⑭ フネ 1回 絵本で
- ⑮ ふみぎり 3回 「カンカンカン」と言う。「カンカンカン ジー(踏切の警報機が、カンカンカンとなって、遮断機がジーとあがった)」「カンカン モウイイ(遮断機があがったから、踏切もう通ってもいいよ)」
- ⑯ ぶるどーぎー 1回 「オオキイ ガーガー」。「ガーガー」は電気掃除機その他、大きい音がするときに使っている。小さい音は「ギー、ギーギー」
- ⑰ ベビーカー 2回 写真を見ながら、母「このベビーカーに乗ってる」子「ミギカ」、そのあとしばらくして子「ベギーカー」
- ⑱ ヘリコプター 2回 絵本を見ながら、子「ピーター」母「ヘリコプターね」、音から、母「あ、飛行機ね」子「ピーパー」

1.4—4 文化的用具及び行為 異なり 5, 延べ 41

- ① ウタ 5回 歌を歌ってくれの要求。このうち3回「オ」がつく「オウタ」。
- ② ジ 24回 字そのものを指しているのはない。絵本を読んでくれの要求。
- ③ シャンシ 6回 「チャンシン チャンシン (写真をみたい)」と探したり、「チャンジン？」はどこかと聞いたり、「シャン シャンシ モウ ナイナイ (写真をもう片附ける)」と言ったりしている。
- ④ テープ 1回 突然に、録音テープのことを言う。
- ⑤ モヨウ 5回 ふとんの花模様のことを言う。子「ナニ？ ナニ？」母「もよう」子「モニョ ナイ」母「ここにはないわね。ここがお花の模様」子「モーニョ モニョ モニョ モニョ」の練習あり。

1.5 抽象語ほか 異なり 43, 延べ 172

1.5—1 数(量) 異なり 10, 延べ 27

- ① イッカイ 2回 「モッカイ」「ハイ マタ アッカン」
- ② イッコ 1回 「モウ イッター (もう一個くれの意)」か、はっきりしない。
- ③ ゴエン 1回 遊びで、母「いくらですか」に対して
- ④ ジュウゴ 1回 本物の数と合っていない。
- ⑤ ニコ 1回 母「今度またつくってあげるからケーキ ね」に対して「マタ ニコ」
- ⑥ ニマイ 1回 写真を見ながら「フタチュ」母「うん、ふたつ、二枚あるわね」子「ニーマ(イ)」
- ⑦ ヒトツ 5回 遊びながら、母「お弁当いくつ買う？」子「ヒトチュ」。その他、「ヒトチュ パッパッパ (電気が一つついている)」, プンちゃんの絵本を見ながら、母「お年いくつ？」子「ヒトツ」母「ひとつなの？ そう」子「フタツ」。また、母「青い電車いくつある？」に対して、「ヒトツ フタツ ナイ ナイノ」
- ⑧ フタツ 12回 子「フタツチュ グウニュウ」母「ふたつ牛乳, そう, お鍋の方とこっちのコップに移したのと」。また、子「フタツ (お菓子)」母「ふたつちょうだい？」子「ウン」母「はい」。子「ミツ」母「三つちょうだい？ はい, じゃ三つ。はいどうぞ」。その他練習もある。母「Tちゃんねお年ふたつになったのよ」子「フタツ フタツ」母「ふたつ」子「フタツチュ」と。
- ⑨ ミッカ 1回 3月3日のみっかのまね。T児の誕生日。録音採集日である。
- ⑩ ミツ 2回 母「おうどん」子「ミツチュ」母「そうそう」

1.5—2 色 異なり 10, 延べ 65

- ① アオ 5回 自動車の色, パセリの色, マットについでる印の色などを言う。
- ② アカ 8回 太陽, 懐中電灯の光。自動車の色, その他, 泣いて顔が赤くなっ

たという時にも使用。

- ③ キイロ 16回 自動車や電車を「キロ ブー」「キイロ ゴンゴン」。その他、弁当を包むタオル、自分のベスト、人参、卵などを「キイロ」と言う。
- ④ ギンイロ 6回 母「お弁当をお父さんに“はい”してちょうだい。持ってって」に対して「ギンイロ」。母「銀色よ、銀紙に包んである」。その他、電車を「ギーロン ゴーゴー」
- ⑤ クロ 3回 「クリュ ノリ(海苔)」「クロ タクシー」
- ⑥ シロ 3回 「シロ バトカー」「シロ ブーブー」
- ⑦ チャイロ 3回 「チャイロ ブーブー」。また、母「それから何色の馬がいた？」子「チャイロ ウマ」
- ⑧ ハイイロ 1回 マイカーの車中から「ハイ(イ)ロ ブーブー」
- ⑨ ピンク 6回 せんたくばさみや母の寝巻を言う。「ピンク ネンネ」。また、母「鬼は何色？」に対して、「ピンク オニ」
- ⑩ ミドリイロ 14回 発音しにくいらしい。母「これは何色？」子「ミードーリーロ」「ミドリロ ノンコチャン」,「ミロイロ ブーブー」,「ミロリロ タクシー」「リロリロ」と聞こえる場合もある。「ミロイロ タクシー ミタ」の言い方もある。

1.5—3 形 異なり1, 延べ1

- ① マル 1回 おもちゃのレールが丸くなっているのを見て言う。

1.5—4 位置・方角 異なり9, 延べ28

- ① ウエ 6回 「もっと上に高くあげろ」の意では1回だけ。あとは二階の意で、5回
- ② シタ 7回 「シタ イク(一階に行く)」
- ③ ナカ 1回 小さい声で「ダガ」と言う。はっきりしない。
- ④ ハンタイ 6回 母とおもちゃのレールをつないでいて、反対になったら「マル ハンタイ」。その他、ふたやテープが反対になっていたら言う。母親も「逆」と言わず「反対」を使用。
- ⑤ ホウ 1回 「オッキイ ホウ」
- ⑥ マエ 1回 レールの上を電車を走らせながら、「マエ(まちがえて言う)」母「前? どっち? 向こうに向けて走らせる?」のがある。
- ⑦ ミギ 1回 「ビッキイ」はっきりしない。
- ⑧ ムコウ 4回 「チョット ムコ」「ムコウ パンダ(向こうにおもちゃのパンダがある)」
- ⑨ リョウホウ 1回 ときこえるがはっきりしない。

1.5—5 時間・時刻 異なり 8 延べ 24

- ① イツ 4回 母「きのうガーンしたの？」子「イツ ガーン」母「いつ？」子「イツ ガーン」。母が「いつしたの？」と聞くので、まねして、過去を指すときに言う。
- ② イマ 2回 「イマ ブー イイヨ（遮断機があがった今は、自動車通ってもいいよ）」。
- ③ キノウ 6回 昨日を指しているわけではない。以前のこと。子「ゴン（三輪車を指して）」母「あ、ごーん」子「キーノ キノウ ゴン」母「昨日ごんしたの？」子「ウン」。これは、一昨日デパートに行き、三輪車に乗ったら、ぶつかって痛かったことを思い出して言っている。その他、「キノウ ウエーン」母「きのうじゃない。きのうより前」などがある。
- ④ キョウ 1回 TVの天気予報を聞いていて、子「デハ」と言い笑う。母「なあに」子「キョウ」母「“きょう”って言ったの？ よく聞いているわね」
- ⑤ ゴゴ 1回 時計をみて、母「3時のところが黄色い字で書いてあるのね。午後だから、黄色い字になるの」子「ゴゴ」。反復模倣か。
- ⑥ コンド 8回 「コンドハ パイパイ（次はお乳をくれの意）」
- ⑦ ジカン 1回 急に子「キロン ギンガ(?)」母「黄色いジカンって言ったの？」子「ウン」母「そう時計よ。今3時って」
- ⑧ トコロ 1回 「イマン トコロ」「今ねるところ」という歌の文句をまねて

1.5—6 その他 異なり 5, 延べ 27

- ① アト 3回 「アト ナイナイ」と写真を見ていう。「のこり全部をしまおう」の意か。「アト ギッ」もあるがはっきりしない。
- ② イッショ 3回 ふとんやせんたく物を取り込みに母と「イッショ イク」副詞的用法。
- ③ ホントウ 3回 母「ざぶとん落ちてるの？ そう。ほんと」子「ホント ホント」。母「ヨーグルト食べられる？」子「ン ホント」母「本当って言ったの？」
- ④ ママ・マンマ 5回 「オッキイマンマ」と使用。
- ⑤ ミンナ 13回 「全部」の意で使用。「ミンナ（積木を） ナイナイ」「ミンナカンチャン（あと全部お母さんが食べろ、もう自分はいらないの意）」。その他、母「おせんたく干してるのよ」子「ミンナ」母「みんな」子「ミンナンコン」母「そう、みんな洗ったのよ」の例もある。

2. 代名詞 異なり 13, 延べ 141

- ① アソコ 1回 「ア・コ ドッカ オ・ト・バイ」の例で、はっきりしない。

- ② アッチ 1回 「アッチン アッチンコン」の例ではっきりしない。
- ③ アレ 3回 絵本やテレビや電池を指して言う。「アレ コチョコチョコ」(電池でちょちょしてくれ)
- ④ オレ 1回 父親のまねして言う。
- ⑤ ココ 19回 「ココ ココヨ (ここにあるの意)」「ココ アブナイ」
- ⑥ コッチ 23回 「コッチニ」「コッチ イク」「コッチニコン」など。
- ⑦ コレ 14回 「コレ オクノ?」「コレ ナニ?」「コレ イタイ」など。
- ⑧ ソコ 3回 母「これはおばあちゃん」子「チョコ」母「うん?」子「チョコ ジンチャ」母「そこにおじいちゃんがいるって言うの?」ははっきりしない。
- ⑨ ソッチ 1回 「チョッチンコン」ははっきりしない。
- ⑩ ダレ 1回 子「ダレ」母「何?」とはっきりしない。
- ⑪ ドコ 16回 「ドコ」10回。「ドッカ ナイ?」の「ドッカ」6回
- ⑫ ドッチ 1回 はっきりしないが「ドッチパー」
- ⑬ ナニ 57回 と非常に多い。どういふものを聞いているかという点、以下のようである。玩具のカップ、絵本のブルドーザー、新聞の広告の赤ちゃんの写真、お鍋の中の豆腐、写真の中の人物、懐中電灯、プリン、急須、チョコレートなどのお菓子、その他、お肉、おうどん、パセリ、かまぼこなどの食べ物。品物は知っているが、名前を知らなかったり、忘れてしまったものの名前を聞く場合が多い。また、知っているものを確認のために聞いたり、あるいは母の声を聞きたくて質問したり、習慣的に聞く場合もある。次のような例もある。①「ナ ナニ?」母「ながぐつ。雨が降ったのかな、長靴があるわね」②「ナニ?」母「ほうれん草」子「ヤヤー」母「そう八百屋さんで買ったの」③子「ナニ?」母「ヘヤークリーム、カンカンのクリーム」子「ナニ?」母「ヘヤークリーム、髪の毛のクリーム」④子「ナニ?」母「これねまき」子「ピンク」母「そう、ピンク」子「イイネー」

3. 動詞 異なり 18, 延べ 124

表にして、使用語と、使用回数、用例をあげる。終止形で使用していない形もあるが、見出し語は終止形に統一し、かっこで漢字等の注を入れた。活用形はまだ十分整っていない。動詞の種類も少ない。「トッテ」「イク」「イタ」「イナイ」などをよく使っている程度である。太陽を「イル」、TVに出た人形を「イル」とか、戸を開けてくれを「ドア トッテ」などと言っているのは幼児らしい表現である。名詞の中の「1.3—2 人間の活動及び行為」

表一 動詞の使用語と用例および回数

	語	回数	用 例 など
①	アゲル	1	風呂場で母に桶を「アゲル」母「ありがとう」
②	アル(アッタ)	22	「アッタ アッタ」「フタ ナイ アッタ」
③	イウ(言ワナイ)	1	「イワナイ グウニユウ」
④	イク(行)	26	「イチョ イク」「オトンチャン イコウ」
⑤	イル(居)	24	「イル(太陽)」「シロ(馬) イタ」「イタ(TVに人形が出たら)」「オトンチャン イナイネ」
⑥	オク(置)	1	「コレ オクノ」
⑦	カク(書イテ)	1	「コッチニ カイテ(要求)」
⑧	キル(着タ)	1	「キタ キタ」
⑨	クル(来タ)	5	「アカイ ブーブー キタ」「オウドン キタ」
⑩	タベル	1	「ダブル (それを食べるの意)」
⑪	ドケル	1	母が腰を掛けようとしたら「ドケ」
⑫	トル(取ッテ)	25	「アマイ パン トッテ(要求)」「ドア トッテ (開けての意で)」
⑬	ノム(飲)	1	母「お水のむ？」に対して「ノム」
⑭	マツ(待ッテ)	1	「マッテッテ(要求)」
⑮	ミエル(見)	5	母「見えたって？」に対して子「ミエタ」 せんたくばさみ、人形などが「ミエナイ」
⑯	ミル	2	母「見る？」に対して子「ミル ミル」「ミロイロ タクシー ミタ」
⑰	ムク(向)	2	「ムク ムク」はっきりしない
⑱	モツ(持)	4	「モッテ(持ってくれの意)」「モッテ (自分がおもちゃをもつてする)」
18		124	

(前出) も参照されたい。

4. 形容詞 異なり 24, 延べ 289

形容詞は六つに意味分類して、使用語と回数と用例を述べる。

4.1 色に関する語 異なり 6, 延べ 55

- ① アオイ 18回 「アオイ ベスト ナイ」「マタ アオイ ブーブー」
- ② アカイ 26回 「アカイ チ」「アカイ ブーブー」
- ③ キイロイ 5回 「キイロイ ゴーゴー」
- ④ クロイ 3回 「クロイ タクシー」
- ⑤ シロイ 2回 「チロイノ コンコン(卵)」「シロイ パン」

- ⑥ マックロイ 1回 マジックで手を汚した子どもの手をみて、母が「Tちゃん おててまっくろいね」に対して、「マックロイノ」と言ったもの。
 (色の形容詞は、二語連結をする場合、この幼児では、ほとんどが名詞を修飾する形式で使用している。)

4.2 視覚に関する語 異なり2, 延べ10

- ① アカルイ 1回 母の語をまねて「アッカリイ」
 ② クライ 9回 この中には明るいことを言う「クランナイ」「クライナイ」が2回ある。子「クリャイ」母「今、電気つけますよ」子「クライナイ」母「あゝ 暗くない？ あかるいの？ 夕方だけど外明るいのね」

4.3 味覚に関する語 異なり2, 延べ16

- ① アマイ 14回 「グウニユウ アマイ」「アマイ パン(ケーキ) イヤ」
 ② スッパイ 2回 母「りんご食べる？」子「スッパイ」

4.4 その他の感覚語 異なり3, 延べ28

- ① アツイ 11回 牛乳を暖めた鍋をみて「アツイ」。懐中電灯を指して、「アチュイ アチュイナイノ?」,「アッチイ プー(熱いから吹いた)」
 ② アッタカイ 2回 母「そうよ。焼いてから、ジュって、はいどうぞ」子「アッタカ」「アッタカーイ」母「あったかいでしょ」。「冷たい」は出ていない。
 ③ イタイ 15回 「イタイ(海苔が口の裏について)」「アチ(足) イタイ イタイ(積木を踏んで)」「イッタイ(母のブラシで髪をといて)」などがある。

4.5 形の大小・距離・重さ・性質など 異なり7, 延べ45

- ① オオキイ 25回 「オッキ ブーブー(自分の玩具の自動車に対して本物を)」「オッキイ(リンゴ、大きいから半分に切ってくれ)」「オオキイ(みかんの袋の大きいのを指して)」「オッキイ ホウ(大きい方をくれ)」。小さい木の人形を指して、あるいは、小さいうずらの卵を指して「オオキイ」とも言う。
 ② カタイ 3回 「ウエンチ(玩具) カタイ」母「かたい？ ねじ」子「ウンネジ カタイ」母「さびついちゃったのかもしれない」
 ③ タカイ 2回 絵本を見ながら、母「これなんですか」子「タカイ タカイ タカイ」母「そうそう、高い高い高いって岩の上に登っているのね」
 ④ チイサイ 4回 「チッチャイ」と言って、丸い積木を探している。「チッチャイ ナイ」とも。
 ⑤ トオイ 3回 これは、絵本の文章の中に「遠い遠い九州の博多まで云々」とあるのを覚えて「シュボシュボ トオイ トオイ」と使っている。
 ⑥ ナガイ 2回 「ナーガイ キン(不明)」とか、母の「お母さんの髪長いから

これで云々」を聞いて「ナガーイ」

- ⑦ オモイ 6回 子「オモイ(玩具箱)」母「重い? 持ってあげるよ。「オモイコン」もある。また、母「Tちゃん持って、そっちは」子「オボーイ」母「軽いわよ。これ重くない軽い」

4.6 判断 異なり4, 延べ135

- ① アブナイ 6回 「オンリ オンリ アブイヨ アブイヨン」。母に危ないから登らないでと言われ、「アブナイ」「ココ アブナイ」。また、「先に階段を登って二階に行ってなさい」と言われ、「アブイ」と言ったり、「アブナー(イ)」と言いながら階段でふざける。
- ② コワイ 7回 母に「こわくないでしょ」と言われ「コワイ」, 「ナンナイ(温度計か) コワイ」あり。
- ③ イイ 29回 「イイ モウ」「モウ イイ」と「いらない」の意で使用14回。「ブーブー イイヨ」「イイ?」など、「通ってもいいよ」「なんかをしていいか」の意で使用のもの14回。その他、ピンクの寝巻がお母さんに似合うの意で、「イイネ」1回。
- ④ ナイ 93回 「デンチ ナイ」「グンニュ ナイ」「アオイ ベスト ナイ」など、二語文でも多く使う, 26回。その他、「モウ ナイ」の使用が多い, 15回

5. 形容動詞 異なり6, 延べ31

- ① キレイ 1回 母「きれい?」に対して、「キレイ」
- ② ジャマ 3回 母が椅子に腰かけようとする時、「ジャンマ」。机にものを置くと「ジャマ」
- ③ ダメ 8回 踏切の警報機がなり遮断機が降りてきたのをマイカーから見ていて、自動車は通ってはだめの意で、「ブーブー ダメ」「アカイ ブーブー ダメ」という。5回。その他、「メー」「メッ」3回
- ④ マッカ 1回 母「そう, ウエーン(泣く)したのね」子「アカ」母「そうよ, まっか」子「マカ ウエーン」母「顔をまっかにして泣いたのね(以下略)」
- ⑤ マックラ 1回 母が絵本を読む。「もう道はまっくら云々」を聞きながら、「マックラ」
- ⑥ ムリ 17回 積木遊びをしながら「ブギ」, それで母が「むり」と訂正し, 子が練習する場面があり, 回数多くなる。穴に積木を入れようとして「ム(ブ)リ」もある。

6. 連体詞 異なり1, 延べ2

- ① コノ 2回 「コノ キイロ コレ ビジョビジョ」。ぬれたシャツを着かえてもらって後に言う。子「ウミ」母「海? どれが海?」に対して、「コノ ウミ(テレビニュースで、画面が全面青になったので、海かと思って)」

7. 副詞 異なり8, 延べ175

- ① イッパイ 5回 「バトカー イッパイ」「クモ イッパイ」あるいは、クリームがびんに一杯入っている、髪を巻くカラーがたくさんある、などに使用。「イッペ」とも。
- ② チョット 3回 母「Tちゃん ちょっと待ってね」子「チョント」。母「ちょっとね(食べ物)」子「チョット」。子「チョット ムコ」母「うん?」などの例のみ。
- ③ ハヤク 14回 遊園地の玩具を早く回してくれの意で「ハイク」、早口になると「ハク」。その他、早く絵本の文字を読めの意で「ハイク」
- ④ マタ 32回 「マタ パイパイ(お乳をまたのみたい)」「マタ アカイ ブーブー(また赤いおもちゃの自動車があった)、「マタ イナイイナイ(再びイナイナイパーをしたい)。「マタコン」の「コン」つき5回。
- ⑤ マダ 8回 子「バナナ」母「バナナが欲しいの?」子「ウン」母「きょうは、でも、来ないの(八百屋)」しばらく間があって子「マイタ」母「うん?」子「マイタ」母「わからない」子「ワイタ マイダ ワイダ」母「また?」子「マダ」母「まだ?」子「マダ」母「わからないじゃないの」がある。「まだ欲しい」の意の「マダ」2回。
- ⑥ モウ 37回 「コンコン(卵) モウ イイ」「モッカイ」「モウ ナイナイ」「モウナイ」など。
- ⑦ モット 57回 「もっと食べものをくれ」「もっと歌を歌ってくれ」「もっとはやく回してくれ、ゆすってくれ」などの意で使用。「ノリ モット」などと要求。
- ⑧ ニックリ 19回 遊園地の玩具をゆっくり回してくれの要求。「コウエン ニックリ」「コロコロトーン コトン ニックリ」。練習もある。

8. 接続詞 異なり1, 延べ2

- ① デハ、ジャ 2回 接続詞使用と言えるかどうかかわからないが、テレビの天気予報「では各地の天気」のまねをして「デハ」。また、電話ごっこを母としていて、母「もしもし」に対して、「ジャ バイバイ」の「ジャ」がある。

9. 感動詞 異なり 20, 延べ 530

表一2 感動詞の使用語と用例および回数

	語	回数	用 例 ほか
①	ア!	4	驚きの声。「ア! トッテ」「ア! ウンチ」
②	アー	1	「はい」の返事
③	アア	2	こまを見つけて
④	アーアー(アアッととも)	8	驚きの声。積木くずれた時, ものがころがった時「ターチャン アーアー(自分がした)」
⑤	アララ(アリラリラとも)	5	驚きの声。「マタ アララ」
⑥	アン(アウ, アブーとも)	13	いやだ。おこり声。自分でやりたい時
⑦	イヤ(ヤーアンとも)	10	がんばる。「イヤヨ」「アマイ イヤーン」
⑧	ウン(ウンとも)	410	応答, 質問, 命令等
⑨	ウン(ウウンとも)	30	「ちがう」とか「いや」の意で
⑩	ウン(ウットとも)	2	間投詞的に, 「ウン デンチ」「ウット ウマウマ」
⑪	エイ	1	とび降りるときのかけ声
⑫	エー	1	「いや」
⑬	エーン	1	「ちがう」
⑭	オリャリャリャ	2	驚き
⑮	ダーン	2	椅子からおりるときのかけ声
⑯	ダパー	18	ダボ, ダボコン, ダボチャンもある。呼びかけ
⑰	ハイ	12	返事「ウン」のほうが多い
⑱	マア	1	まね
⑲	ヨイショ	6	かけ声, 「ヨイチョ」とも
⑳	ワー	1	ものを見つけたときの驚きの声
20		530	

驚きの声やかけ声なども多いが, T児では「ウン」「ウン」が410回とめだって多い。大ざっぱに分類して, 用例をあげると次のようである。

- ① 親の質問, すずめ, 命令などに対する返事(肯定の「はい」「そう」の意)で, 使用が一番多い。
 - ・母「まだねんねするの?」子「ウン」母「じゃTちゃんひとりてねんねしてる?」子「ウン」, 母「Tちゃん, 下に行く?」子「ウン」
 - ・母「さわっちゃだめよ」子「ウン」母「バターついたほう食べなさい」子「ウン」
 - ・母「ごみが落ちてたの?」子「ウン」
- ② 親の話や説明に対して, 合づちふうに(から返事的)
 - ・母「ああ, こっちは白くて丸いのね」子「ウン」母「月なの, これ」

- 母「体洗ってから、洗ってから」子「ウン」母「洗ってからそれで中に入るの」
- 母「車転がして遊んでいたの？ いただきます。いただきます」子「ウン」母「Tちゃんごはん熱い？」
- 母「九度何分、九度ちょっと」子「ウン」母「何度かわかるのよ、あれで見ると」
- ③ 親の質問に答えられないとき（から返事的）
 - 子「チッチャイ チッチャイ」母「ちっちゃい何のこと？」子「ウン」
 - 母「大きい椅子ゴーンになったの？ そう、いつゴーンにしたの？」子「ウン」母「いつ？」子「ウン」
- ④ 親の質問がわからず聞き返し、返事を待つ。
 - 母「何してるのこれ」子「ウン？」母「ねんねしてるの」
 - 母「これだあれ？」子「ウン？」母「Tちゃんよ」
 - 母「あれ何？(テレビ)」子「ウン？」母「何？」
- ⑤ 親にこれは何かと指さして聞いたり、してくれと求める。この幼児には、1歳前後に多く使用したこの種の「ウン」がまだだいぶ残っている。(ノ＝上昇調)
 - 子「ウンノ」母「そうよ、お指さして」
 - 子「ウンノ」母「どれ？ 赤ちゃん、Tちゃんが赤ちゃんのとき」
 - 母「何？ 何？」子「ウンノ」母「それ見るの？」
 - 母「なあに、それ」子「ウンノ」母「ここに入れればいいの？」
 - 子「ウンノウンノ」母「これ持ってするの？」子「ユックリ」
- ⑥ その他、不明のものがある。

10. 音まね語 異なり 95, 延べ 373

音まね語については、注6に述べるように別のところで発表したの、ここでは取りあげない。

11. こそあど語 異なり 11, 延べ 76

この中には、代名詞、形容動詞、副詞、連体詞からの語が入っているので総計からはずした。

12. 不明 異なり 191, 延べ 191

たとえば次のようなものを入れた。「キーパ」「キーパソコン」「ギル」「シャンモ」「アイケイ」「ウハ」「アーアー」「アイビ」「アプリ」「インコン」

「ウーウ」「ウー」「エア」「オーメンミ」「オッ」「ガター」「ガンダン」「カニ
タ」「ギンゴン」「グークン」「コクー」「コイ」「ゴリロン」「ジョー」「ジャ
コー」「ナイチー」「タンチュ」「タット」「ドーター」「ドップ」「パタン
コ」「ヒュウ」「ブンクシャ」「ベー」「ボタ」「ポチン」「ヤンボボン」「ロリ
ロコロロ」などで、意味があるのかもしれないが、調査者にはでたらめとし
か理解できなかったものをここに入れた。

ま と め

T児が一日調査で使用した自立語と、それらの語をどのように理解して使
用していたかを見てきた。それを異なりと延べに分けまとめてみると、表一
3のようになる。この表を中心にして、T児の特色をあげると次のようである。

- (1) 異なりで331語を使用し、それらの語を延べで2,376回使用しているこ
とになる。これが満2歳当日の一日の使用語として多いか少ないか、意味
の理解の程度ではどうか、などについては、他の幼児の同じような調査と
比較してみなければわからない。後に残された研究である(注3参照)。
- (2) 品詞で見ると(第3表の「音まね語」以下は省略)、異なりでは、名詞、
形容詞、感動詞、代名詞、副詞ほかの順で使用し、延べでは、名詞、感動
詞、形容詞、副詞、代名詞、動詞ほかの順で使用している。動詞の使用が
少なく、形容詞や感動詞の使用が多いことがわかる。感動詞や形容詞の特
定のを何回も使用しているのである。
- (3) 名詞の中を意味分類したが、その順位を見ると異なりでは、1.2「日常
生活用語」、1.5「抽象語ほか」、1.4「文化的活動及び行為」、1.3「社会生
活用語」、1.1「自然界に関することば」で、断然「日常生活用語」が多く
なっている。延べで見ると、1.2「日常生活用語」が同じく多いが、1.4
「文化的活動及び行為」、1.3「社会生活用語及び行為」も使用回数は多い。
ついで、1.5「抽象語ほか」、1.1「自然界に関することば」となっている。
「日常生活用語」の中には、衣食住に関することばが含まれているのだから
当然である。

表—3 自立語の異なり，延べ（％も）

	T			児		
	順位	異 な り	％	順位	延 べ	％
1 名 詞		239	72.42		1082	45.54
1.1 自然界に關することば		(24	7.27)		(79	3.32)
-1 自然及び自然現象	⑦	11	3.33	⑨	41	1.73
-2 動 物	⑧	10	3.03	⑫	32	1.35
-3 植 物	⑬	3	0.91	⑱	6	0.25
1.2 日常生活用語		(108	32.73)		(318	13.38)
-1 身体の名称及び現象	④	15	4.55	⑩	36	1.52
-2 食べもの・飲みもの	②	31	9.40	③	126	5.30
-3 身につけるもの(衣類ほか)	⑦	11	3.33	⑯	19	0.80
-4 家具・用具	①	40	12.12	④	101	4.25
-5 住居・へや	⑧	10	3.03	⑪	34	1.43
-6 そ の 他	⑮	1	0.30	⑲	2	0.08
1.3 社会生活用語及び行為		(26	7.88)		(208	8.75)
-1 人間そのもの(固名も)	⑤	14	4.24	②	132	5.55
-2 人間の活動及び行為	⑪	7	2.12	⑦	58	2.44
-3 あいさつ	⑭	2	0.61	⑰	12	0.51
-4 公共物(地名も)	⑬	3	0.91	⑱	6	0.25
1.4 文化的活動及び行為		(38	11.52)		(305	12.84)
-1 遊 び	⑬	3	0.91	⑧	50	2.10
-2 玩具・遊具	⑥	12	3.64	⑤	75	3.16
-3 乗物とその周辺のもの	③	18	5.45	①	139	5.85
-4 文化的用具及び行為	⑨	5	1.52	⑨	41	1.73
1.5 抽象語ほか		(43	13.03)		(172	7.24)
-1 数(量)	⑧	10	3.03	⑭	27	1.14
-2 色	⑧	10	3.03	⑥	65	2.74
-3 形	⑮	1	0.30	⑳	1	0.04
-4 位置・方角・関係	⑨	9	2.73	⑬	28	1.18
-5 時間・時刻・前後	⑩	8	2.42	⑮	24	1.01
-6 そ の 他	⑫	5	1.52	⑭	27	1.14
2 代 名 詞		13	3.94		141	5.93
3 動 詞		18	5.45		124	5.22
4 形 容 詞		24	7.27		289	12.16
5 形容動詞		6	1.82		31	1.30
6 連 体 詞		1	0.30		2	0.08
7 副 詞		8	2.42		175	7.37
8 接 続 詞		1	0.30		2	0.08
9 感 動 詞		20	6.06		530	22.31
自 立 語 (小計)		330	99.98		2376	99.99
10 音まね語		95			373	
11 こそあど語		11	33.2		76	3.20
13 不 明		191			191	

- (4) 意味分類のうち下位の分類を見ると、異なりでは、1.24「家具・用具」、1.22「食べもの・飲みもの」、1.44「乗物とその周辺のもの」、1.21「身体の名称及び現象」、1.31「人間そのもの」、1.41「玩具・遊具」、1.11「自然及び自然現象」、1.21「身につけるもの」、1.52「色」、1.51「数」、1.25「住居・へや」ほかとなっており、延べは、1.44「乗物とその周辺のもの」、1.31「人間そのもの」、1.22「食べもの・飲みもの」、1.24「家具・用具」、1.45「玩具・遊具」、1.52「色」、1.32「人間の活動及び行為」、1.41「遊び」となっている。

「家具・用具」「食べもの・飲みもの」に関する語の異なりが多いが、これらの語はたった一回の使用が多く、また、母のことばの模倣、あるいは音まね語での代用が多いのである。「乗物とその周辺のもの」を何回も使用しているが、T児は乗物が大好きで、ミニカーも80台近くも持っていたし、この日も父親の車で街をドライブしているからである。「人間そのもの」に関する語が多いのも当然で、父母への呼びかけ、「自分がする」の意味で自分の名前を何度も使用しているからである。「玩具・遊具」、「遊び」に関することばが多いのは、幼児の特色で、おもちゃの遊びとか「いないなーばー」の遊びを母親としているからである。「色」に関することばが2歳当日に多く出ているのは、これまでの研究から特異で⁽⁸⁾、この幼児の特色と思う。「人間の活動及び行為」にあがっていることばは、活用のない動詞とも言えるが、この報告では前にも述べたとおり名詞にしたもので、主として幼児語からなるものである。多いのは当然である。

「抽象語ほか」に関することばは、異なりで多いように見えるが、「数」とか「方角・時間・時刻」に関することばは、一回ぐらいの使用で、模倣などもあり、ことばと意味が一致せず、安定して使われていないのである。2歳の年齢で当然である。

- (5) 品詞に分類して述べてきたが、T児はこれらの語を、ものの命名、呼びかけ、感動、あいさつ、返答、抗議、要求、質問、叙述、判断として、主として、一語文として用い、その中にいくらか二語文、ほんの少しの三語

文をまじえて、親子間の会話をしているのである。その他、物音をまねたり、大人のことばを反復したり、自分でことばをつくったり、ことばの練習をしたりしている。大人が内言する場合を外言しているのである。

品詞に分類すると、名詞の中の抽象語のところに量のことばがあがっていないので、T児に量のことばがないように見えるが、副詞の中に分類されている「イッパイ」「チョット」で量の多少をあらわしているのである。また、位置をあらわすことばは、代名詞としてあげた「ココ」「コッチ」で多用しているのである。動詞が少ないと言ったが、ここでは省略した「音まね語(5)(6)の“動作を音まねで”⁽⁶⁾」とか「感動詞」の類で代用したり、幼児語を使ってまにあわせているのである。

- (6) 以下に、この幼児がよく使用した語をあげておく。18回以上使用の語である。「ギーギー*(色々のものに般用)」ほかは音まね語として分類している(注6)が、この「よく使用した語の例」には入れておいた。

T児がよく使用した語(数字は使用回数)

ウン	410	アカイ	26	タオル	21
ナイ	93	イク	26	パイパイ	19
モット	57	トル	25	ココ	19
ナニ	57	ユウエンチ	25	ユックリ	19
ブーブー	39	ターチャン	25	ナイナイ	19
モウ	37	オオキイ	25	ギーギー*	19
マタ	32	イル	24	ダバー	18
オトウサン	30	ジ(字)	24	ゴーゴー	18
オカアサン	30	コッチ	23	アオイ	18
ウワン	30	アル	22	シュッポッポ	18
イイ	29	イナイナイ	21	ウエーン*	18

- (7) 異なり、延べの数をあげてきたが、意味理解の程度のわからない語も多く、数は傾向として見られるに過ぎない。ただ、2歳という年齢は、この報告の幼児の語の使用からもわかるように、家庭で語を習得するはじまりの時期である。たとえば、「ギューニュー」「ユウエンチ」などの語を母子によって練習しているのなど、子どものことば習得の方略の一端が伺える⁽⁹⁾。

<注>

1) T児の満2歳になった当日の一日の生活時間のあらまきは以下のようである。

7	8	8	11	12	1	3	3	4	5	5	6	6	7	8	9	9
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
20	0	30	40	0	0	0	40	0	20	50	20	50	50	30	10	30

起 床 (階下へ)	朝 食	遊 積 写 か く れ 木 真 ん ほ び (二階へ)	昼 食	遊 び (お も ち ゃ の か っ ぱ で)	昼 ね	遊 び (絵 本 で)	お や う (一階へ)	遊 び (ち ゃ で 電 車 の お も ち ゃ で)	父 親 帰 宅 (自 動 車 で 外 出)	帰 宅	お 風 呂	夕 食	テ レ ビ	お 風 呂	ふ と ん に 入 る (二階へ)	就 寝
-----------------	--------	--	--------	---	--------	-------------------------	----------------------	---	--	--------	-------------	--------	-------------	-------------	-------------------------------------	--------

2) この調査の一部は、国語学会(昭和52年10月)で、「ある二歳児の二十四時間調査」のテーマで、二十四時間調査のメリット、デメリットについて発表した。

3) T児の妹の満2歳当日に同じく一日調査を母親に依頼して行ない、第4回ICU幼児言語学シンポジウム(昭和54年8月)で、「言語習得の方略一名詞型と動詞型一」のテーマで発表した。きょうだい、あるいは男女のちがいの比較もできるのである。(同学会の刊行物に掲載予定)

4) 意味分類と言っても、国立国語研究所資料集6『分類語彙表』(昭和39年)は用いず、まず、品詞に分類してのち、名詞を、幼児の生活環境から、以下のように分類した。(1)自然界に関することば (2)日常生活用語 (3)社会生活用語及び行為 (4)文化的活動及び行為 (5)抽象語ほかと、大きく五つに分け、下位分類をした。問題が多いが、今はこのようにしておく。

5) 自立語は、付属語と並んで用いられているが、前者は詞、後者は辞とも言われている。簡単に述べると、自立語は概念語で、助詞、助動詞(付属語または辞という以外)の、単独で一文節を構成しうる単語である。これに属する品詞も、学説によって異なるが、本文のようにした。[T児の付属語の異なり、延べは次のようである。助詞14(118)、助動詞4(31)、補助動詞1(1)。]

6) 音まね語と命名したが、幼児の擬音語にはこの語がふさわしいと思ったからで

音まね語の七分	(異なり)	(延べ)
① ものの名前を音まね(幼児語)で	7(語)	97(回)
② ものの名前を音まねで	18	38
③ ものの名前を感じ音まねで	5	6
④ ものの音をまねて	20	52
⑤ 動作を音まねで	31	126
⑥ 動作を感じ音まねで	5	28
⑦ 状態を音まねで	9	26
計	95	373

ある。この報告では省略したが、第3回ICU幼児言語学シンポジウム（昭和53年7月）で、「幼児の音まね語とその習得過程——1歳から2歳」のテーマで発表し、同学会の刊行物に掲載予定なので、詳しくは、そちらを読んでいただきたい。そこでは、音まね語を以上の七種に分類した。そのうち①②③の語は、この報告の名詞の中にも含まれている。T児はこの種の語が非常に多い。(5)(6)(7)は、動詞その他に含めることも可能であるが、問題が多いのでそれはしなかった。

- 7) 「コン」は、用例にも多く出ているが、名詞ほか形容詞、副詞、代名詞とあらゆる品詞の単語についている。T児の造語である。32回
- 8) この幼児は、乗物が好きだと前にも述べたが、色名を交差点の信号の青と赤からおぼえた。1歳4か月ごろであったが、その後、調査者のヒントもあってか、母親が意識して教えることがあったのか、色々のものを「アカ」「アオ」と命名するようになって、1歳9か月に「赤」が安定し「アカイ ブーブー」「アカイ パッパ(ストーブ)」と修飾語として、二語結合としても使用するようになり、半月後には「青」が安定して、「アオイ ゴーゴー」「アオイ クック(父親の靴)」と言うようになった。しかし、これまでの研究を見ると、研究が少ないのであるが、6歳で66%である。愛育研究所編『乳幼児精神発達検査』(昭和25年、金子書房)によると、赤、黄、青、緑を印刷したカードを見せて言わせるテストで、四色全部正しく言えた合格率は次のようである。各年齢約200名の幼児に行ったものである。なかなか正確な命名はむずかしいようである。

色名(赤・黄・青・緑)テストの合格率

	4 歳			5 歳			6 歳		
	前期	後期	計	前期	後期	計	前期	後期	計
男	6.3	13.2	9.7	45.2	52.2	50.0	67.6	45.8	62.2
女	4.2	34.5	20.8	45.1	69.6	62.5	67.5	80.0	69.5
計	5.4	23.7	14.8	45.2	61.2	56.3	67.5	59.1	66.0

- 9) 子どもの使用語については、筆者も『幼児言語の発達』(東京堂出版)で、一女児の6歳までについて述べたことがある。その他、岩淵悦太郎・村石昭三編『幼児の用語』(日本放送出版協会)には、3児の5歳までの使用語のうち基本度の高い1,051語について、その用例およびそれぞれの語についての解説が報告されている。